

## ○研究の概要（県立渋川青翠高等学校の取組）

### 1 本校における道徳研究の在り方と研究課題の設定

- 校訓「礼・誠・明」は、道徳的には「公共の精神を養うとともに、社会性の育成を図り、より良い人間関係を築こうとする力の育成」を目的としたものである。
- より良い社会を実現するため、社会性や道徳心の育成、マナー向上などの道徳教育を効果的（意図的、計画的）に実施できる最終教育機関として、「信頼される社会人として活躍する力（「礼・誠・明」）の育成」を学校教育活動の目標とした。
- 本校は総合学科高校のため選択科目が多く、クラス単位での授業が少ない。そこで特別活動や各教科、そして、総合学科高校で原則としてすべての生徒が履修する教科である「産業社会と人間」を重視した実践研究を行った。

### 2 体系的・組織的な道徳教育の推進

- 昨年度組織した「道徳教育実践推進委員会」が立案し、校務運営委員会や職員会議で検討した後、全職員で道徳教育の研究を実践した。
- 昨年度同様、中央研修への参加、県外の先進校視察、文部科学省より講師を招き講演会を実施するなど、道徳教育について職員個々の理解をより深めるため、研修機会の充実を図った。
- 昨年度全校生徒を対象に実施した、新学習指導要領における中学校の「特別の教科 道徳」から22項目のアンケート調査を、今年度も定期的の実施し、生徒の道徳的意識の実態の把握と、結果に基づいた意識が低い項目についての改善に努めた。
- 特別活動については、各種行事においてそれぞれに道徳的な意味付けをただだけでなく、生徒自身にも各自に道徳的目標を設定させ、意識の高まりや実践などを自己検証させた。

### 3 特別活動、家庭や地域との連携における取組

- 全校生徒による、校地および学校周辺の道路等の清掃活動を実施し、奉仕活動等に主体的に参加し活動することの意義を考えさせた。
- 昨年度同様、球技大会やマラソン大会、開校記念式典などの学校行事に際し、道徳的な目標をもたせて臨むことが「信頼される社会人」への成長に結び付くことを意識させるよう配慮した。
- 海外の高校生と交流し、海外の文化を知るだけでなく、我が国の文化を海外の高校生に伝えることを通して、国際理解や我が国の文化についての考えを深めた。

### 4 公開研究授業の実施

- 道徳教育支援事業1年目は学校行事（文化祭）を取り上げ、「文化祭への取組から信頼される社会人について考える」というテーマでLHRを実施した。行事全般に対する取組は今年度も変わらないが、2年目は教科における研究授業を実施した。
- 総合学科高校の他学科高校との最大の相違点は「産業社会と人間」という科目にある。今年度は「産業社会と人間」において道徳教育を意識した取組を行い、その実践を公開研究授業の場で発表した。
- 普通教科においても授業の中に道徳的要素を取り入れることに取り組み、国語科で「現代文A」の『山月記』を教材として、公開研究授業を実施した。

### 5 研究の成果

- 職員は、講演会、学校行事の道徳的取組だけでなく、各教科指導の中での道徳的取組をとおして、高等学校教育における道徳教育の在り方を学び、道徳教育を推進する意識が向上した。
- 生徒は、学校行事をはじめ、日常生活や学校生活のあらゆる取組において道徳的目標を設定することで、道徳的意識の高まりを実感し、「信頼される社会人として活躍する力」を身に付けることを意識して生活することができた。

# 県立渋川青翠高等学校の研究内容

## 1 学校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数
ぐんまけんりつしぶかおせいすいこうとうがっこう 群馬県立渋川青翠高等学校	渋川市渋川3912-1	0279-24-2320	579人

## 2 研究課題

信頼される社会人として活躍する力（「礼」「誠」「明」）の育成

## 3 研究課題の設定理由

「礼節を重んじ」、「誠実に」、「賢明に」生きるということは、人間関係を大切に、いろいろな人の立場を理解した上で、寛容の心を持ち、謙虚に、そして、自身の目標に向けて前向きに生きていくことである。高等学校教育は、社会に出る直前の学ぶ場であり、本校では、「公共の精神を養うとともに、社会性の育成を図り、より良い人間関係を築こうとする力」を育成することを主眼に据えて道徳教育の在り方を研究し、体系的、組織的かつ意図的、計画的に推進する必要があると考えた。

## 4 研究の概要

### (1) 研究のねらい

校訓「礼」「誠」「明」の実現には、道徳教育の推進が不可欠であり、そのことが高等学校学習指導要領の目指す「生きる力」の育成にもつながると考え、本校における体系的、組織的な道徳教育の在り方について研究することとした。

### (2) 研究の内容

#### ① 体系的・組織的な道徳研究の推進

##### ○ 道徳アンケート「今の自分を振り返って」

生徒の実態を把握するため、平成27年3月施行の新学習指導要領による中学校の道徳項目に基づいた22項目の「今の自分を振り返って」というアンケートを、昨年度6月と1月に実施し、今年度は4月と8月、そして12月の3回実施した。

##### ○ 県外先進校への視察

7月12日 東京都立墨田川高等学校

1月12日 埼玉県立栗橋北彩高等学校

1月18日 千葉県立浦安高等学校

##### ○ 講演会の実施

9月9日

講師 文部科学省 澤田浩一 教科調査官

対象 本校職員 県内高等学校教職員

演題 「高等学校における道徳教育について」

日本人は自尊感情が低くこれからの高等学校教育において、子供の心を育てることが大切であり、それを強化する特設の教科で道徳教育を進めることが必要となる。高等学校の道徳教育は公民に、「人間としての在り方」は特別活動に入り、頭で考えるのは「公民」で、心で考えるのは「特別活動」や「総合的な学習の時間」であり、自己の在り方・生き方、キャリア教育を行い、それを踏まえて全体計画を作成することが大切である、というお話をいただいた。

～今の自分を振り返って～		平成28年12月
このアンケートは、生徒のみなさんの「人としての在り方生き方」について意識調査を行い、本校の道徳教育の充実を図ることを目的として行なうものです。自分自身を振り返り、各設問に回答してください。		
回答について		( )年( )組( )番 氏名( )
①良くできている		②たいたいできている
③あまりできていない		④できていない
番号	アンケート項目	回答欄 (1～5まで)
(1)	何事も自分で判断し、責任ある行動をとっている。	
(2)	毎日、規則正しい生活を送っている。	
(3)	向上心を持ち、自分の長所や個性を伸ばそうとしている。	
(4)	自分の将来の目標や希望に向かって具体的に努力している。	
(5)	物事を客観的に見ることで、真実を知った上で判断し、行動しようとしている。	
(6)	家族や周囲の文意を感じ、それに応えるよう努力している。	
(7)	礼儀の意義を理解し、紳士儀に守られて、礼儀正しく人と接している。	
(8)	心から感謝できる友達を持ち、互いに助けたり、助け合ったりしている。	
(9)	他人の意見を認め、話し合った経験を持っている。	
(10)	法や校則など、規則を守って行動している。	
(11)	正義を重んじ、誰にでも公平公正に接しようとしている。	
(12)	社会生活において人に迷惑をかけることなく、マナーを厳守して行動している。	
(13)	働くことの意義を理解し、将来の生き方について考えを深めている。	
(14)	父兄や祖父母を敬い、家族の一員として充実した家庭生活を送っている。	
(15)	学校や学級の一員として、自分の役割と責任を自覚している。	
(16)	郷土の伝統と文化の大切さを理解し、郷土の発展に貢献したいと考えている。	
(17)	日本人としての自覚を持ち、信頼される社会人になりたいと考えている。	
(18)	外国のできごとに関心をもち、国際的視野に立って物事を考えようとしている。	
(19)	人や動物、植物といった、かけがえのない生命を大切にしている。	
(20)	自然環境を大切にすることを理解し、エコ活動に取り組んでいる。	
(21)	経験を通して感動したり、人間が及ばない自然の力に畏れを感じることがある。	
(22)	自分を高めるためによりよく生きていきたいと思っている。	
(23)	あなたは、この1年間の学校生活の中で、道徳的な意識が高まったと思いますか。 「はい/いいえ」で答えてください。	①はい ②いいえ
(24)	「はい」と答えた方に質問します。 あなたの道徳意識に影響を与えたものを次の中から選んでください。(複数回答可)	
①学校行事 ②先生の話 ③世の中のできごと・ニュース ④家族 ⑤友人		
⑥本 ⑦その他( )		



- 1月11日 講師 高崎経済大学 飯島明宏 准教授  
 対象 本校職員 本校2年生  
 演題 「大学で鍛える”問題解決能力”  
 ～社会で必要とされる”力”とは何か?～」
- 1月19日 講師 新島学園短期大学 駒田純久 教授  
 対象 本校職員 本校2年生  
 演題 「勤労観・職業観の形成に向けて」
- 2月10日 講師 関口恵子(空羽ファティマ)氏(絵本作家)  
 対象 本校職員 本校1年生  
 演題 「生まれてきてくれてありがとう」

○ 各教科における取組(学習指導案)

「国語科」

- ・教材名 「待つということ」(角田光代)
- ・考察

この教材を使い、グループ学習で、生徒それぞれに筆者の態度について考えさせたい。また、その相手が、同国人ではなく、外国人ということについても考えさせたい。そこから、「思いやり」や「国際理解」をはじめ、人としての在り方を育む。

- ・指導目標(本時の目標)
  - 筆者の心情を読み取ることができる。
  - 自分のこととして考えることができる。
- ・本時の展開

生徒の学習活動	指導上の留意点
○筆者の行動について考える。 (グループワーク)	・自分だったらどうするか考えさせる。
○話し合ったことを発表する。	・どうするべきだったのか考えさせる。

- ・評価
  - 道徳的心情を感じることはできたか。

「数学科」

- ・教材名 集合
- ・本時の展開

生徒の学習活動	指導上の留意点
○集合とは 集合となるもの 集合とならないもの	・条件がはっきりしていないものの集まりは集合ではないこと ・他の人への配慮、仲間はずれ意識の回避

「英語科」

- ・教材名 Brave Mari and her puppies 「マリと子犬の物語」
- ・本時の展開

生徒の学習活動	指導上の留意点
○登場人物の心情を推測して作成した英作文を利用し、意見を交換する活動	・全員で協力できているかを確認し、必要に応じて援助する。

- ・英作文
  - If I were ( ), I would think /say "( )".

- ・評価
  - 自分の考えを伝えるとともに、他の生徒の考えを的確に理解することができたか。

「保健体育科」

- ・教材名 運動・休養と健康

・本時の展開

生徒の学習活動	指導上の留意点
○スポーツを行う意義について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを配布し、答えと理由を書き、発表させる。</li> <li>・発表を聞き、意見のある生徒にはその意見を述べさせる。</li> </ul>

・プリント（概要）

サッカーU-16国際ショナルドリームカップで日本代表が世界でも最貧国と言われる国の代表に負けたことを取り上げ、生きるため、ひたむきに戦うことの大切さを教わった。

この4教科だけでなく、他の教科においても、授業の中に道徳的な意識を高める場面を指導計画の中に取り入れた。

② 特別活動、家庭や地域との連携

○ 「振り返りシート」の活用

昨年度、特別活動を通して生徒の道徳に対する意識の変化について、特に文化祭に対する取組を取り上げ、研究してきた。今年度は教科中心の研究であったが、特別活動を通しての道徳意識の高まりは大きなものであったことから、「振り返りシート」を作成し、各行事の際、生徒個々が各自の道徳的な目標をもって取り組むことができるようにした。

なお、意識の変化については、昨年度同様、アンケート調査で検証した。

○ 「奉仕活動」の実施

昨年度まで本校では、県高校総体の開会式の際、学校に残留する生徒に対して映画教室を実施していた。今年度は内容を変更し、日頃、校地内であまり清掃をする機会がない場所と学校周辺の道路(歩道)の清掃を実施することにした。

当日は、1年生が校外、2年生がグラウンド、3年生が校舎周辺を中心に、ゴミ拾いや草むしりを行った。

**平成28年度  
群馬県立渋川青翠高等学校  
道徳教育総合支援事業  
「振り返りシート」**

年:  月:  日:  姓:  名:

1 行事が始まる前に記入すること

ア 参加行事  
マラソン大会

イ この行事に参加することで、高めたい道徳項目は何ですか？  
「道徳内容項目」の中から選びましょう。

ウ 例えば、どのようなことをすればその項目は高まると感じますか？

2 行事が終わってから記入すること

エ 行事にあたり、(イ)や(ウ)の内容を整理して取り戻しましたか？  
はい  いいえ

オ (イ)に記入した道徳項目の意識は高まりましたか？  
「はい」か「いいえ」に○を付けましょう。  
はい  いいえ

カ (ウ)で「はい」と答えた人に聞きます。  
あなたのどんな行動がその意識を高めたと思いますか？

キ (ウ)で「いいえ」と答えた人に聞きます。  
どんな行動を取ってれば、道徳意識は高まったと思いますか？

※この「振り返りシート」は道徳ファイルに綴じておきましょう





## 5 実践研究事例

### (1) 「産業社会と人間」における取り組み

#### ① 「産業社会と人間」のねらい

平成28年度「産業社会と人間」			
	月日	曜日	内容
1	4月12日	火	オリエンテーション(1)
2			自分史の作成(説明・作文)
3	4月15日	金	オリエンテーション(2)
4			自分史の作成(作文)
5	4月19日	火	働くことについて・職業について知る
6			職業調査体験(職業レディネスの実践)
7	4月22日	金	現代社会と今後の社会について
8			職業調査発表準備
9	4月26日	火	職業調査発表準備
10			系列を理解する(系列と職業の関連性)
11	5月6日	金	職業調査発表
12			キャンパス/職場見学・希望アンケート
13	5月10日	火	外部講師講話①
14			「働くことについて」 職業調査のまとめ
15	5月13日	金	高校総体
16	5月17日	火	上級学校を知る / スタートプラン1 スタートプラン2
17	5月20日	金	スタートプラン3
18			キャンパス見学事前指導
19	5月24日	火	1学期中間試験
20	5月27日	金	職場見学事前指導
21	5月31日	火	ポスターセッションの説明・準備
22			グループ別
23	6月3日	金	キャンパス見学のポスターセッションの
24			ポスター作成・発表準備
25	6月7日	火	キャンパス見学のポスターセッション
26			
27	6月10日	金	系列授業の体験学習①
28			系列授業の体験学習②
29	6月14日	火	系列授業の体験学習③
30			系列授業の体験学習④
31	6月17日	金	外部講師講話②
32			卒業生(就職者・進学者)
33	6月21日	火	後期科目の説明・希望調査
34			第1回後期科目希望調査
35	6月24日	金	「未来の家族への手紙」の説明
36			
37	6月28日	火	1学期期末試験
38	7月1日	金	1学期期末試験
39	7月5日	火	時間割オリエンテーション
40	7月8日	金	教科科目ガイダンス①
41			人文科学・国際文化系列
42			自然科学・デザイン系列
43			生活文化系列
44			ビジネス・情報管理系列
45	7月12日	火	教科科目ガイダンス②
46			第2回後期科目希望調査
47	7月15日	金	履修計画(時間割)の作成①
48			後期科目確定
49			ライフプランの説明
50	7月19日	火	球技大会
51	8月30日	火	福祉交流事前指導
52			グループ別
53			ライフプランの作成準備
54	9月2日	金	福祉交流学習
55			マークシートへの記入
56	9月6日	火	福祉交流のポスターセッションの
57			ポスター作成と発表準備
58	9月9日	金	福祉交流のポスターセッション
59			
60	9月13日	火	ライフプラン発表準備①
61			ライフプラン発表準備②
62	9月16日	金	ライフプラン発表①(クラス)
63			ライフプラン発表②(クラス)
64	9月20日	火	ライフプラン発表③(クラス)
65			ライフプラン発表④(クラス)
66	9月23日	金	系列オリエンテーション
67			履修確認
68	9月24日	土	ライフプラン発表(学年)
69			
70	9月27日	火	ライフプラン発表のまとめ
71			「ライフプラン」冊子の作成
72	9月30日	金	産社のまとめ アンケート
73			
74			後期科目のオリエンテーション

- ・自分史作成や体験学習等を通して、自分の適性や社会性等さまざまな自分の能力を理解する。
- ・職業調査、キャンパス・職場見学、福祉交流、外部講師講話により、現実の社会に関するさまざまな体験から情報を収集する。
- ・高校卒業後の進路、その先の職業を考えて将来設計を行う。そこから戻って、高校生活でどんな学習をし、どんな力をつければよいか原稿に書き出し、パワーポイントでまとめてライフプランとして公開授業の中で発表する。
- ・各系列の体験学習や教科ガイダンスなどから系列についての理解を深め、進路希望と合わせて系列決定し、履修計画を作成する。



#### ② ポスターセッションについて

9月9日(金)第6校時、道德教育をテーマとしたポスターセッションを行った。公開授業に合わせ、「産業社会と人間について」「職業調査について」「職場体験について」「福祉交流について」の4テーマでそれぞれがグループを作り、授業で実践した調べ学習・体験学習・体験発表等を道德的観点から模造紙やパワーポイントにまとめ、発表した。

以下は、今回身に付ける目標とした道德的観点である。

- ・相互理解、寛容の精神の意識を涵養する。
- ・他人への思いやり、感謝の気持ちをもって、人に接する態度を育てる。
- ・社会参画の意識、勤労観、働くことの意義、公共の精神を涵養する。

(2) 「公開研究授業」

① 日時・教科・科目・教材

9月9日（金）6校時

「現代文A」 『山月記』（中島敦）



② 道徳的ねらい

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きること喜びを見出す。

③ 指導案

	時間	生徒の学習活動	支援及び指導上の留意点
導入	5分	○前時までの学習内容の確認。 ○本時の学習事項の確認。	○開始時、机間巡視し、服装を確認する。 ○ワークシートを配布する。
展開	30分	○李徴が虎になった自分の姿をどう感じているかを本文中から抜き出す。 (グループワーク) ○第5段落を音読する。 ○李徴自身が虎に変身してしまった理由として考えている言葉を捜す。 (グループワーク) ○虎に変身してしまった理由を話し合う。 (グループワーク)	○「醜悪」「あさましい」といった言葉に気付かせる。 ○丸読み等、短く区切りながら読ませる。 ○「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」という言葉に気付かせる。 ○自由な発想で考えさせる。
終末	15分	○人の在り方について考える。	○「信頼される社会人」とからめて考えさせる。 ○各グループでホワイトボードを使って発表させる。



(3) 学校行事・特別活動等における校訓に基づく道徳教育の配慮事項の例

活動名・分野・目的等	活動の様子	配慮事項
球技大会 ○競技を通して、礼儀、友情、遵法精神、公正、集団生活の充実、感動などの心を育む。		○生徒主体の運営とし、ルールを遵守し、助け合い、協力して競技運営させる。
一日体験学習会 ○学校紹介をすることで、自主、創造、思いやり、礼儀、郷土愛、勤労などの心を育む。		○自主性、創造性、積極性を意識して取り組ませる。



<p>創立40周年記念式典</p> <p>○記念の手形アートを全校生徒で協力して作成することで、責任、集団生活の充実、感動などの心を育む。</p>		<p>○全員で協力し、一つのものを作り上げる大切さを意識して取り組ませる。</p>
<p>マラソン大会</p> <p>○競技を通して、自律、向上心、克己と強い意志、友情、感動などの心を育む。</p>		<p>○克己心、向上心、責任感を意識して取り組ませる。</p>
<p>体育祭</p> <p>○競技を通して、自律、向上心、克己と強い意志を、クラス対抗で行うことにより、友情、感動などの心を育む。</p>		<p>○向上心や克己心、仲間との協力や責任感を意識しながら取り組ませる。</p>
<p>国際交流</p> <p>○外国の高校生との交流を通して、思いやり、相互理解、国際理解などの心を育む。</p>		<p>○外国文化の理解や日本文化の理解、積極性を意識して取り組ませる。</p>

○ 創立40周年記念式典

上記「学校行事」の中では「手形アート」の作成の場面を取り上げたが、今年は創立40周年という節目であり、多くの場面において、校訓「礼・誠・明」と「信頼される社会人」を意識した取組が実践された。

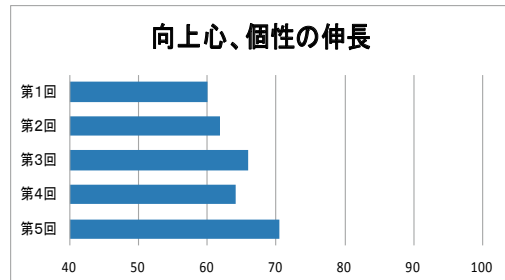
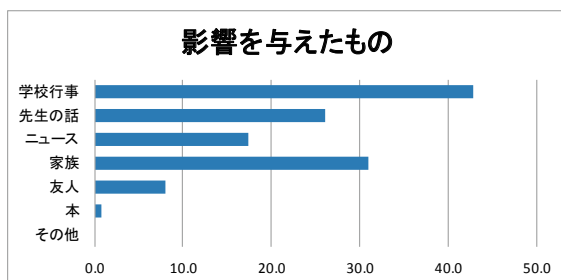
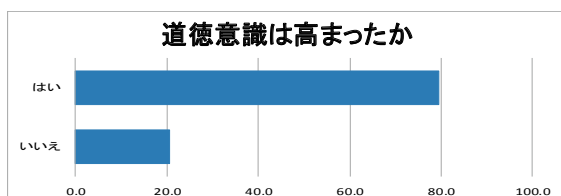
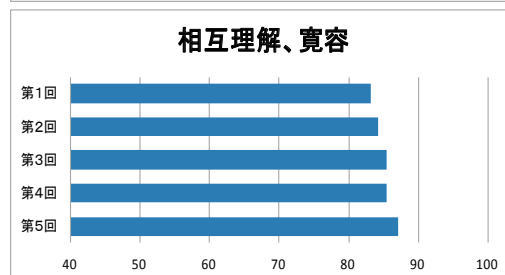
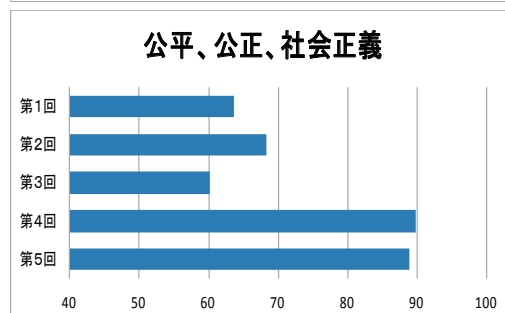
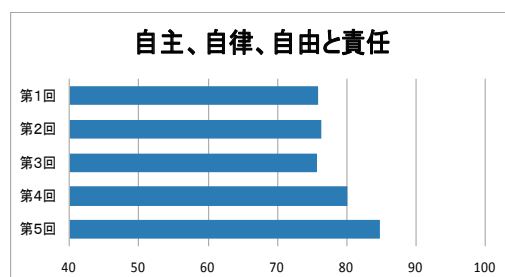
年度当初から導入された挨拶に続く声かけ運動（3way挨拶）や式典を迎えるための校舎清掃の徹底、高校生らしい清潔感のある身だしなみ、案内や駐車場の誘導などの係業務に対する取組など、具体的な実践を通して、それらが最終的には「信頼される社会人として活躍する力の育成」につながることを実感できた取組であった。

式典当日は、生徒全員が心をひとつにし、集中力を発揮して厳粛な式典にふさわしい態度で行動し、多くの来賓から賞賛の言葉をいただくことができた。この式典の成功も、生徒にとって自主性や協調性、自律心の向上につながり、大きな自信になった。



#### (4) 考察

平成27年6月から平成28年12月まで5回実施してきたアンケート結果では、22項目のうち「節度・節制」以外の21項目において、「良くできている」「だいたいできている」の数値は、第1回と比較して増加している。特に昨年度あまり数値の変化のなかった「自主、自律、自由と責任」「公平、公正、社会正義」の2項目が今年度になって大きく伸びたのは、昨年度1年間の積み重ねの結果と思われる。また、全校生徒のほぼ8割の生徒が「道德意識は高まっている」と答え、その理由を「学校行事」や「先生の話」、「家族」としていることから、生徒の道德意識を高めるためには、家庭との連携をとりながら、計画的に特別活動や教科指導における道德教育が有効であると考えられる。



## 6 研究の成果及び課題

### (1) 研究の成果

2年間にわたり「信頼される社会人として活躍する力（「礼」「誠」「明」の育成）」について道德教育の観点から研究してきたが、生徒のアンケート結果を見てわかるとおり、教科指導の中で、そして、特別活動の中で、道德的意識をもって計画的に職員や生徒が取り組むことで、生徒の意識の高まり、向上心や社会性、自律性が向上し、各自の持つ「信頼される社会人として活躍する力」の育成に繋がることが明らかになった。

### (2) 今後の課題

来年度以降も引き続き、教科指導や特別活動を通して、生徒の道德的意識を高めるための取組を継続していく。そのためには全体計画の検証や検討、各教科の指導計画の中に道德的視点を盛り込む必要がある。また、家庭との連携を強化するために、PTA総会やPTA新聞を通して、道德教育の重要性を伝える必要がある。2年間の研究の成果を職員全員が共有し、高い意識を持って継続的に取り組んでいきたい。

## 7 参照できるホームページ

<http://www.seisui-hs.gsn.ed.jp/>（群馬県立渋川青翠高等学校）